刊行のことば

大滝精一教授は，2018 年 3 月 31 日をもって本学を定年により退職されました。大滝教授の長年にわたる本学での研究・教育などにおける業績をたたえるために，本誌『研究年報経済学』の第 77 巻第 1 号を，大滝教授のご退職を記念する特別号として刊行いたします。

大滝教授は，東北大学経済学部に入学後，1975 年 3 月に同学部経営学科を卒業され，同年 4 月に同大学院経済学研究科博士課程前期 2 年の課程に入学し経営学を専攻されました。1977 年 3 月に同課程を修了（修士（経済学）），その後，同大学院博士課程後期 3 年の課程に進学され，1980 年 3 月に同大学院を単位取得後退学されました。同年 4 月には専修大学経営学部で専任講師に着任し教員としての第一歩を踏みだされ，1983 年には同大学助教授に昇任されました。1987 年 10 月には東北大学経済学部に助教授に着任，1992 年 4 月に東北大学経済学部教授に昇任され，以後，2018 年年 3 月に退職されるまで，長きに渡り本研究科において研究，教育，学内行政に携わられました。この間，2011 年の東日本大震災後の大混乱の中で東北大学大学院経済学研究科研究科長・経済学部長を務められ，前代未聞の難局を乗り越えるために組織の舵取りに奮闘されました。

大滝教授の研究は広範囲にわたりますが，企業の研究開発活動に関する研究，大企業における新事業創造，社内ベンチャーに関する研究，ベンチャー企業の経営およびその組織に関する研究，地域経営に関する研究，震災復興に関する研究などが挙げられます。大滝教授の研究の特徴の一つは，理論的な枠組みが確立していない時代の先駆けとなる現象に着眼し，それらの重要性をいち早く指摘し，分析視角やフレームワークを提示されるという点です。そして後進の研究者たちに刺激と議論の基盤を提供してきました。もう一つの特徴は，大滝教授の研究は圧倒的に豊富な現場でのフィールドワークと経営者らとの対話に基づいたものであるという点です。そのため説得力が高く，研究者のみならず実務家からも広く支持を受けてきました。

大滝教授は組織学会，経営哲学学会，日本ベンチャー学会においても理事等の要職を歴任し学会に貢献をされました。また教育者としても，大滝教授のもとには薫陶を受けようとする学生，社会人が毎年のように集まり，膨大な数の学部生および大学院生を指導し，その中から多数の研究者を輩出されました。さらに大滝教授は，本研究科の運営や社会貢献活動にも献身的にご尽力され，本研究科が社会から高い評価を受けるようになったことに大きく寄与してきたことは疑いもないことです。さらに大滝教授の温厚かつ朗らかで，私心のない高潔なお人柄は，多くの人々に慕われ尊敬を集めてまいりました。

長きにわたり本研究科を支えてこられた大滝教授が去られることは本研究科にとって大きな喪失ではありますが，大滝教授のこれまでのご貢献に深く感謝の意を表するとともに，教授の新たな門出にあたり今後ともますますご健勝でこれまで以上にご活躍されますことを深く祈念する次第です。また我々後進に対し，引き続き温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう心よりお祈り申し上げる次第です。

2018 年 3 月 31 日

東北大学大学院経済学研究科長　照　井　伸　彦